

自己評価結果公表シート（平成30年度）

東豊中幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・一人ひとりを大切に、自己肯定感を育む。
- ・遊びと生活を通して子どもたちの「積極的に生きる力」「自律性」を育てる。
- ・遊びや生活の中で、自分で考えて決める力を育てる。
- ・思いやりをもって人と関わる力を育てる。
- ・自分を大切に思う心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・職員間での報告・連絡・相談を大切にし、職員全員で共通理解ができるよう努める。
- ・職員間で自主的な園内研修を行い、チーム全体の資質向上に努める。
- ・一人ひとりの発達や個性を職員全員が理解し、チーム保育に努める。
- ・職員一人ひとりが保育目標を持ち、それを実践できるようにする。
- ・保護者と子どもの情報を共有し、家庭との連携を大切にする。
- ・保護者の保育参加を行い、園での子どもの様子を知ってもらうとともに、自園の教育方針への理解を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の資質向上	保育参観を行い、職員間で意見を出し合い、自分の保育を振り返ることで改善点を見つけ、よりよい保育ができるよう努めている。 職員が主体的に行う園内研修をすることで一人ひとりが積極的に学びを深めようとする意識が高まってきている。 また外部研修にも参加し、専門的な知識や他校園所の保育を学んでいる。
安心して過ごせる環境づくり	遊具や園内外の点検を毎日行い、安全を確認している。子どもたちが落ち着いて過ごすことができるよう、保育室内の環境も子どもたちの様子に応じて整えている。また職員室・廊下なども遊びのコーナーを設け、担任以外の保育者とも関わりが多くもてるよう工夫している。 保育補助として、フリー教諭13名、年少補助9名、年長・年中補助1名の体制をとっており、子ども一人ひとりの成長に合わせ、手厚く援助ができるよう努めている。
遊びの充実	ルールのある遊びを楽しみながら、社会性や協調性、自ら考える力を養えるよう職員同士で研修や話し合いを重ね教材研究をおこなっている。 また繰り返し遊びこみ、何度も試すことが出来る環境を整えている。 (集団遊び・カードゲーム・ボードゲーム・水つなぎ遊び)
子育て支援	主に保護者対象として育児ストレスの軽減や子どもたちの健やかな育ちを援助するために心理専門家によるカウンセリングを実施している。 地域の親子が参加できる「りんごらんど」「はぐはぐりずむ」を年間を通して開催している。 働く保護者の支援と卒園児との交流を目的に早朝保育の「おはようクラス」・放課後預かり保育の「りんご組」「おかえりクラス」を実施している。 今後さらに地域の方々が来園できる機会が増えるよう考えている。

保護者理解	<p>保護者がクラスの子どもの育ちや保育者の関わり方を理解できるように保育参加をする機会を設けている。（いちごせんせい）</p> <p>また父親保護者に行事に参加し、手伝いをしてもらいながら様子を知ることができる機会を設けている。（りんごパパ）</p> <p>保護者が子どもの日々の姿や園での様子を知ることができるよう、写真を使ったポスターを展示したり、HPに保育の様子を掲載したり、保育中に子どもたちと一緒に遊ぶ時間を設けたりしている。</p>
-------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

園内研修や職員会議では職員それぞれが得意分野を活かし、発表や意見交換を行うことで幅広い知識を知ったり、保育に必要な共通理解を得たりすることができ、保育実践につなげることができた。

職員間のチームワークが深まり、一人ひとりの保育目標がより明確になり、向上心をもって保育を行うことができた。

5. 今後取り組むべき課題

◇保育の質

一人ひとりの子どもたちの姿や成長をよく見て、保育者が保育の研究テーマをもつことで幼児理解を深め、よりよい保育を目指す。

◇園内研修の充実

年間の研修計画を作成し、職員間で園の教育目標や環境、保育活動で大切にしていることについて話し合いを重ね、職員全員で保育のねらいを明確にし、共通理解できるよう努める。またそれを保育の中で実践し報告しあい、一人ひとりが向上心をもって取り組んでいく。

外部で受けた研修を報告し情報共有することで職員の知識を豊かにする。

◇情報共有の徹底

職員会議を行い、担任だけではなく職員全員が一人ひとりの子どもの様子をより把握し、個々の特性に合った援助をしていきたいと考えている。また、日々の保育の出来事を伝えあい、相談しあう等、職員間のコミュニケーションの場を大切にしていく。

◇幼保小の連携を深める

連携していくことの重要性を感じ、引き続き他校園所との交流をさらに充実させていくとともに、学びの連続性を踏まえて保育内容を検討し、小学校就学へスムーズに移行できるようにする。

他校園所の職員関係もより深められるよう努める。また卒園児の就学後の様子を見に行き卒園後の様子も把握するよう努める。

◇子育て支援

卒園した後も子どもたちが安心して過ごせる場所の一つとして、小・中学生を対象とした放課後に園内で過ごせる環境を「おかえりクラス」以外にも考えるとともに、地域の親子との交流をより一層もてるように施設開放を行う。

6. 学校関係者の評価

手紙やホームページで遊びや活動の様子を伝えること、保育風景の写真を使ったポスター展示を行うこと、子どもたちの様子を日々丁寧に連絡することで保護者に園でどの様な事を大切に保育しているのかより理解してもらえるようになったと考えている。また、保護者が保育参加できる機会を設け、園での子どもの様子を見ることで成長を実感でき、保護者自身にも充実した時間を過ごしてもらっていると感じている。保護者からの理解を得られたことで保育者自身も志を高くもち、保育に臨むことが出来た。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。